

会 議 議 事 録

会 議 名	第 1 回 学校関係者評価委員会 (東京工科グループ校共同開催)		専門学校 東京工科自動車大学校世田谷校
開催日時	平成 25 年 11 月 12 日 (火) 18 時 ～ 20 時		
会 場	東京テクニカルカレッジ (東中野校舎) B1F テラホール		
参 加 者	委員	5 人	(参加者) 井組 浩紀、植平 誠、森田 隆 (欠席者) 谷川 潮、山森 敦
	事務局	2 人	小林 完、山口 泰之
会 議 碌	1. 開会挨拶 (学園：佐々木本部長、三上校長、佐藤校長) 進行：小林校長 2. 学校関係者評価委員会の説明 (資料 A 3 1 枚) 今回第一回目という事で、『職業実践専門課程』の文部科学大臣認定についての概要を資料に基づき説明。(佐藤校長) 3. 委員自己紹介 各自自己紹介を簡単に行った。 4. 委員長、副委員長、書記の選出 委員長 井組浩紀氏、副委員長 植平 誠氏、書記 森田 隆氏に決定した。 5. 委員会会則の説明 (資料 A 4 1 枚) 資料に基づき、(目的) (所管事項) (委員) (委員長等) (会議) について、委員会則を読み上げ参加者全員の承認を頂いた。(小林校長) 6. 東京工科自動車大学校世田谷校 自己点検・自己評価資料説明 第 1 回目であるため、委員長に代わって校長より自己点検・自己評価の説明を行うことが提案され、委員より了承された。以下の説明が行われた。 ・特徴として強調したい事項についての説明 5 期制、カリキュラムチャート、コマシラバス、授業シート、AG 評価、授業アンケート等を通じて当校の教育質 保証システムについて ・特徴ある外部連携 ・評価基準の説明、参照資料の説明、 ・総括の説明 7. 本件の問い合わせ先について 巻末のメールアドレスまたはTEL、FAXにて自己評価委員会委員長(小林校長)が質問を受け付ける旨説明があった。 8. 委員からの質問および意見		

Q1.会議の開催日程についてどのように計画しているのか。

A1.定例は、5月から6月に第1回を開催し、前年度の自己点検評価の確認と改善事項について話し合う。また11月から12月に第2回を開催し、改善状況の報告等を行う予定でいる。ただし、今年度は、初年度ということもあり日程がずれているため、1月末から2月上旬に第2回目を開催する予定。

Q2.学生相談について カウンセリングの対応についてどのような体制を引いているのか。

A2.自己評価にあるとおり、まだ十分な体制ができていない。今後の検討課題としたい。

Q3.卒業生支援体制について、東京工科の先生と学生のきづなは他校に比較して強いと思っているが自己評価が低いのでその理由を教えてください。

A3.全卒業生に対する支援が十分とは言えないので、自己評価としては低い点数としている。今後は同窓会とも連携し、再就職支援や仕事上の悩みについての相談などに取り組みたい。

Q4.次回開催日程について早めに決めてほしい。

A4.今回は急なお願いとなってしまったが、次回以降は早い段階で日程をお知らせする。

以上

会議風景



平成 25 年 12 月 12 日

第一回学校関係者評価委員会の総括について

専門学校東京工科自動車大学校世田谷校
校 長 小林 完

平成 25 年 11 月 12 日に開催された平成 25 年度第一回学校関係者評価委員会の総括について、以下の通りご報告いたします。

記

当該会議議事録 議事中の「第六号議案：平成 24 年度自己評価報告書に基づく学校関係者評価について」において賛成多数により可決決定されたとおり、当該委員会では平成 25 年度の学校関係者評価は、平成 24 年度専門学校東京工科自動車大学校世田谷校自己評価報告書内容に準じるものとされた。

委員会の上記のご判断に基づき、本校としては、第一回学校関係者評価の総括として、「平成 24 年度版自己評価報告書」の総括部分の抜粋を、当該委員会の総括として報告する。

なお、本評価委員会から学校側に対し、報告書中で学校側が自らの課題として捉えている点については改善を図って頂きたい旨要望があったこと、また、議長から各委員に対し、次回会合までに本自己評価報告書について各自さらに内容を精査し、意見を持ち寄ってもらいたい旨要請があったことを記しておく。

以上

平成 25 年度

第 1 回 学校関係者評価 結果

(学校関係者評価委員会実施日:平成 25 年 11 月 12 日)



学校法人 小山学園
専門学校東京工科自動車大学校世田谷校

1. はじめに

本校の平成 25 年度第 1 回目の学校関係者評価は、平成 25 年 11 月 12 日に開催された学校関係者評価委員会で承認され、平成 24 年度自己評価報告書内容に準じるものとされました。この事について、以下に結果をまとめます。

大項目	平成 24 年度 自己評価	第 1 回学校関係者評価
基準 1 教育理念・目的・ 育 成 人 材 像	3.8/4.0	小山学園の教育理念や目的、育成人材像の重要性に関しては、教職員に十分に浸透しており、その実践においてもおおむね満足できる取り組みがなされている。また、各学科の教育目標、育成人材像を正しく方向付けるための一連のプロセスにおいても適切に構築されている。 一方、環境の変化に対応するための将来構想に関しては、今後も社会等の動きを見極めて柔軟に対応する必要がある。
基準 2 学校運営	3.4/4.0	学校運営方針や事業計画については明確に定められており、設置法人や学校そのものの運営に関しても寄付行為や規定類により適切に運営されている。一方、専門学校教育を取り巻く環境は日々変化しており、柔軟性かつ迅速に対応できる体制を整える必要がある。
基準 3 教育活動	3.8/4.0	教育目標の設定や成績評価の仕組み、教員組織等はおおむね満足できる水準に達している。特に教育方法や評価に関しては組織的に取り組んでおり教育の質保証に関しても、コマシラバスや授業シー等の独自の取り組みもあり評価できる。 今後の課題としては、自動車産業の技術革新や業態の変化に対し、産業界の人材ニーズがさらに高い教育の質を望むばかりではなく、内容も変化することも考えられるため、教育課程の編成に関しさらに研究を続けるとともに、優れた資質を有する教員を確保すること努力が必要である。
基準 4 学修成果	3.3/4.0	就職については、自動車業界の幅広い分野から求人があり、学習成果が業界のニーズに結び付いていることが窺える。また、早期内定や高い就職率など満足できる水準に達していると考えられる。資格・免許取得率の向上に関しては、現状に留まることなく、さらに高い目標を目指しさらなる施策を講じることを期待する。また、卒業生の動向調査については十分に実施されているとはいえないため、今後は組織として体制を整えていく必要がある。
基準 5 学生支援	3.3/4.0	就職支援や保護者との連携についてはおおむね満足できる水準に達している。一方で、毎年僅かながら退学者が発生しており、人間性を含む対応力強化、解決策の共有などについて、なお一層低減に努力する必要がある。また、カウンセリングに対する現状の対応策について、質問があり次年度の向けて対応策を計画するとしている。
基準 6 教育環境	3.7/4.0	施設・設備・教育用具等は、おおむね満足できる水準に達している。また、学外実習・インターンシップ・海外研修等への取り組みに関しても、おおむね満足できる水準に達している。一方、防災面に関しては、施設面での問題は無いが、緊急時の避難を想定した訓練および連絡体制などにおいては、さらに備えを充実することを検討すべきである。
基準 7 学生の募集と受入れ	3.5/4.0	学生募集活動に関しては、コンプライアンス上は適切な運営が行なわれている。 一方で、入学定員は充足できていないことから、上記に掲げた優れた教育活動やその成果などの情報発信提供方法を改善していく必要がある。
基準 8 財務	3.6/4.0	財務に関しては、財務基盤、予算収支計画、監査の各項目に関して問題ない。なお、財務情報の公開に関しては、第 2 回学校関係者評価委員会までに実現することを確認した。
基準 9 法令等の遵守	3.1/4.0	法令等の遵守に関しては、法令遵守、個人情報保護、学校評価の各項目に関して問題ない。教育情報の公開に関しては、第 2 回学校関係者評価委員会までに実現することを確認した。
基準 10 社会貢献・地域貢献	3.3/4.0	学校のエデュケーション資源を活用した社会貢献・地域貢献については、地元の町内会の活動、および地域の子供たちを対象とした行事へのスタッフなど、高齢化する地元社会において若い学生の参加が非常に感謝されている。また、地元中学生や修学旅行生に対する体験授業等の実施など積極的に実施している。 これらの積極的な取り組みについて、一定の評価ができる。

以上